

a 学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ◎ 社会のために役立つ志を持つ生徒の育成 ◎ 地域・保護者の期待に応える学校 【ビジョン】(自校の将来像) ◎ 伝統や文化の継承を軸に成長する学校
----------	----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント		
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ			
確かな学力	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する。	幸崎思考力の向上	基礎学力の定着	・定期テストの知識・技能の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R5:70.9%)	75%	72.9%	70.2%	93.6%	B	・2学期定期テストの知識・技能の観点において50%以上正答している生徒の割合が、1年生が61.4%、2年生72.2%、3年生77.1%であった。3年生のみ目標値を上回ったが、1、2年生では目標値を下回った。基礎学力の確かな定着と、30点未満の生徒の固定化を防ぐ必要がある。	・引き続きモジュール学習を取り入れ、授業の復習を繰り返して行えるような環境を整える。 ・課題が大きい生徒については、全校全体での取組を考える必要がある。 ・非認知能力にも着目し、来年度の取組を提案していく。	○			・思考ツールや接続詞の掲示物が各教室にあり、生徒も教職員も日常的に思考力向上やR80を意識できるよう工夫されていることに感じました。成果が目に見えることは、時間がかかることだと思いますが、粘り強く今の取組を続けてください。 ・1年生の学力向上のために学習に取り組めるよう、担任の先生の努力されていることがよくなりました。その生徒にあった指導の取組が必要だと思います。 ・R80が効果ありと感じています。	
			・シンキングツールの活用や協働的な学習、個別最適な学びに向けた授業改善を図る。	・定期テストの思考・判断・表現の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R5:52.1%)	55%	64.5%	67.1%	122.0%	A	・2学期定期テストの思考・判断・表現の観点において50%以上正答している生徒の割合が、1年生が57.1%、2年生70.1%、3年生76.5%であった。 ・どの学年も目標を上回り、前回の結果を上回っている。R80や思考ツールの活用によって、応用問題に対応できる考え力と、問題に向かおうとする意欲が向上している。	・授業改善の結果が出ているので、引き続き個別最適な学びによる授業改善をテーマとした授業研究を行う。 ・課題が大きい生徒に関して個別の手立て意識した授業を組み立てられるよう、指導案に明記するなど取組を提案する。	○				
			・ICTの効果的な活用と、R80を活用した振り返りを行う。	・「授業の終わりに、目標に対応したまとめや振り返りをR80で行っている」に対して、肯定的評価の割合(新規)	90%	73.1%	91.6%	101.8%	A	・教職員アンケートにおいての割合が85.7%と前回を10.7%上回り、生徒アンケートにおいての割合が91.6%と前回を18.5%上回っている。 ・教職員アンケートの割合が増えれば、生徒アンケートの割合も増える結果となっている。	・教職員がR80に取り組んだ結果、生徒アンケートの割合も増えたので、教職員がより質の高いR80を理解すれば、生徒のR80も質が高くなると考えられる。よって引き続きR80について、教員のスキルアップに取り組む。	○				
豊かな心・健やかな体	自他を大切に、ともに成長しようとする生徒を育成する。	自己肯定感の向上	自己肯定感の向上	・自己の役割を認識し、繰り返し成功体験を積める授業や行事等を行う。	・Q-Uアンケートにおける生徒の割合(R5:57.5%)	60%	67%	68.6%	114.3%	A	・授業や行事において、生徒が主体的に活動できる場をたくさん設けることができた。 ・授業では「個別最適な学び」における授業や自由進度学習による授業について、教職員も全体研修に取り組んでいる成果が出ている。	・生徒が授業後、「分かった」「できた」と感じる授業づくりに引き続き取り組む。 ・行事や生徒会活動において、生徒が主体的に活動できるよう、計画を立て見直しをもった取組とする。	○			・みつわ祭で合唱や劇などで、仲間と楽しんで伸び伸びと活動する姿から、自己肯定感の向上に向けての取組の成果の一端を見ることができました。これは行事だけでなく、それをつくづく日頃の取組が生きているからでしょう。3年生の卒業式が全生徒にとっていい集大成になれるといいと思います。 ・学校生活の中で、何らかの役割をやり遂げることは、その後の生活の中に必ず生きてくると思います。体育の準備体操は、基礎体力づくりに役立っていると思います。 ・自己肯定と他者肯定との関わりが日常生活に生かされている。
			自治的な活動を通して、互いに成長しようとする集団の育成	・お互いを認め合い、高め合う集団づくりを行い、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	・運動会、文化祭などの各行事後のR80とアンケートの肯定的評価の割合(新規)	60%	95.4%	95.2%	158.7%	A	・みつわ祭の郷土芸能や群読、合唱の発表に向け、リーダーを中心として練習に取り組んだ。3年生全員が必ずそれぞれのリーダーとなり、その役割を果たすという経験をさせることにより、自己有用感や達成感を持たせることにつながった。 ・みつわ祭実行委員会を設け、生徒が主体的に活動できる機会を設けることができた。	・生徒が主体的に活動できるよう、リーダー育成を継続して行う。 ・行事後は肯定的評価が高いが、身に付いた力が普段の学校生活と結びついていない生徒がいる。日常生活と結びつけるためのしかけづくりを模索したい。	○			
			健康の増進と体力の向上	・基礎トレーニングを充実し、体力・運動能力の向上を図る。	持久力・柔軟性について、前回の記録を上回る生徒の割合	50%	67%	69.6%	139.2%	A	・体育の授業において、準備運動の中に補強運動として腕立て伏せ、上体起こし、ジャンプスワットを取り入れた。また、柔軟運動も取り入れ継続して行った。 ・体育の授業前に、グラウンドの場合はトラックを2周、体育館の場合は体育館の長い辺を3往復のランニングを取り入れ、継続して行った。	・柔軟性においては73%、持久力においては67%の生徒が前回の記録を上回った。しかし、年齢と心身の発達の間隔を考えると、特に持久力についてはより数値が高くても良いのではと感じる。 ・授業外でも運動の習慣を付けさせる工夫が必要になる。	○			
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	郷土愛の醸成	地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・「獅子太鼓の継承は、自分と地域の関わりを育む機会になっている」に対して、肯定的評価の割合(新規)	75%	86.9%	94.0%	125.3%	A	・1・2年生が50代目の幸崎中学校郷土芸能の活動を始めている。3年生から受け継いだ技術や思いをさらに高めようという意欲が出ている。 ・今後も、生徒それぞれの希望にあったパートで、自ら意欲的に工夫して取り組めるよう仕組んでいく。	・「郷土芸能の時間は、意欲を持って積極的に取り組んでいる」に対して、96.0%の生徒が肯定的評価を出している。2.5倍イット上昇した。地域の皆様から法被を寄贈していただいた。今後さらに力を合わせ、郷土芸能を地域に誇りに披露できるように日ごろから練習を積み重ねていく。	○			・贈っていただいた法被を通して、地域の方々とのつながりを感じ、感謝の心をもつて獅子太鼓の活動への意欲を高めてほしい。 ・時間外勤務が減ることが、先生方の負担(身体的・精神的)軽減につながり、なるべく健康な状態で生徒に対応できるように支えてあげてください。 ・地域の伝承芸能に触れて育つことは、郷土愛の育成と、地域の大人たちへの愛も育つのではないかと考えます。 ・地域との一体感が感じられます。	
			充実感・達成感に満ちた教育活動と教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在学時間の削減(45時間以内)を徹底する。	・時間外勤務45時間以内の職員の割合(R5:93.8%)	95%	82%	91.7%	96.5%	B	・11月の45時間以内の割合が、75.0%と下がったが、12月・1月は100%になった。 ・ただ時間を守ればよいというスタンスでなく、それぞれの教職員が、自分の負担を余裕をもって進められるようにする。また、その成果も上がり、なおかつ退校時間が早められることによって、心身ともに良い状態で業務にあたることができるようになる。	・ワークライフバランスを整え、生徒と向き合う時間の確保をし、落ち着いた心状態で教育活動を行う。その結果が充実感・達成感の実感できる業務につながり、生徒への教育効果がさらに高まると思われる。	○			

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。